

名古屋大学グローバルネットワーク

国際交流グループ

2014 年度活動報告書



名古屋大学グローバルネットワーク  
2014 年度活動報告書

1.	名古屋大学グローバルネットワーク（国際交流グループ）紹介	1
2.	スモールワールド・コーヒアワー活動報告	3
3.	ヘルプデスク活動報告	15
4.	ランゲージシャワー活動報告	21
5.	留学のとびら活動報告	30
6.	名古屋大学グローバル・リーダー育成プログラム（MEIPLES）	36
	国際学生フォーラム（IF@N）活動報告	
7.	English College活動報告	46
8.	国際交流グループフリーマーケット活動報告	50
9.	異文化交流サークルACE活動報告	53
10.	NUFSA名古屋大学留学生会活動報告	60

## 名古屋大学グローバルネットワーク（国際交流グループ）

名古屋大学ではキャンパスの国際交流を活発にするために  
学生が主体となって様々な交流活動をしています。  
そんな活動を一緒にサポートしてくれる仲間を募集しています。  
学生の皆さんの参加をお待ちしています！

### スモールワールド・コーヒーアワー (Small World Coffee Hour)

コーヒーやお茶を片手にリラックスした雰囲気の中で留学生と一般学生が出会い、文化や学生生活に関することなどを気軽に話し合える国際交流の場を毎月（学期中）に開催しています。楽しい文化交流の場を一緒に作ってくれる仲間を募集中です！

（問い合わせ）国際教育交流センターアドバイジング部門（IB 電子情報館西棟739 号室）

Email: isa@iee.nagoya-u.ac.jp

URL: <http://www.isa.provost.nagoya-u.ac.jp/prpgram/smallworld.html>

### ヘルプデスク (Help Desk)

各学期の最初の3週間～1ヶ月の間、国際棟のラウンジに設置するヘルプデスクを拠点に、新規来日した留学生へのサポート活動を行っています。また、留学生との交流のきっかけになるようなイベントも企画しています。留学生が気軽に立ち寄れる場を一緒に創ってくれるボランティアを募集中！

（問い合わせ）国際教育交流センター短期留学室（国際棟1階）

Email: volunteerdesk@iee.nagoya-u.ac.jp

### ランゲージシャワー (Language Shower)

何年も学習している外国語なのに自信を持って使えない、第2、第3の外国語を使いたい、そんな要望に応えるためのプログラムです。間違いを恐れずに話し、聞き、楽しむ場を一緒に作ってみませんか？

（問い合わせ）国際教育交流センターアドバイジング部門（IB 電子情報館西棟 739 号室）

Email: adv@iee.nagoya-u.ac.jp

### 留学のとびら (Gateway to Overseas Studies)

留学のとびらは、交換留学、語学留学など色々な形の「留学」を経験した名大生による、将来の名大留学候補生をサポートする団体です。毎年の留学フェア、留学相談会を主催、

その他留学に関連する様々な企画立案をしています。留学は現地に行ってみないとわからないことがたくさんです。実際に留学を経験したからこそできる活動を通して留学に行く後輩達と一緒にサポートしましょう！

(問い合わせ) 国際教育交流センター海外留学部門 (国際棟1 階)

Email: [abroad@iee.nagoya-u.ac.jp](mailto:abroad@iee.nagoya-u.ac.jp)

### 名古屋大学グローバル・リーダー育成プログラム (MEIPLES) 国際学生フォーラム (IF@N)

キャンパスに集う多様な学生が、日本語・英語で自由、活発に討議を行い、国際理解・相互理解を深めていくことを目指して開催される国際学生フォーラムです。名古屋大学グローバル・リーダー育成プログラムの一環として、このフォーラムと一緒に創っていく実行委員会のメンバーを募集しています。

(問い合わせ) 国際教育交流センターアドバイジング部門 (IB 電子情報館西棟739 号室)

E-mail: [isa@iee.nagoya-u.ac.jp](mailto:isa@iee.nagoya-u.ac.jp)

### English College

English College は英語を話す機会をすべての人に提供することを目的とした国際教育交流センターの学生サークルです。昼食時に英会話で盛り上がり、英語でディスカッションをしたりと、様々なイベントを定期的で開催しています。どの学年からも気軽に参加できます。

(問い合わせ) [meidai.englishcollege2013@gmail.com](mailto:meidai.englishcollege2013@gmail.com)

### 異文化交流サークルACE (Action Group for Cross-Cultural Exchange)

ACE では、「交流・架け橋・ボランティア」の精神で活動を行っています。ACE の最も重要な活動は毎年4 月と10 月に名古屋大学に来る留学生の受け入れ活動をする事です。その他にも一年を通じて留学生と一般学生が交流するイベントを企画しています。いつでも誰でも大歓迎です。参加したいと思った時がスタートです。

(問い合わせ) ホームページ

<http://ace.tuzikaze.com>

### NUFSA 名古屋大学留学生会 (Nagoya University Foreign Students Association)

名古屋大学の留学生や一般学生など多様なメンバーで構成されている留学生会です。名古屋大学で学ぶ留学生が楽しく留学生活を送れるようサポートしたり、国際交流イベントを開催しています。参加をお待ちしています！

(問い合わせ) Email: [nufsa@nagoyaren.com](mailto:nufsa@nagoyaren.com)

スモールワールド・コーヒーアワー  
Small World Coffee Hour

## スモールワールドコーヒーアワー Small World Coffee Hour

### 2014年度 活動報告書

総合文責：井上美里

#### 1. 団体紹介

Small World Coffee Hour はイベント「Small World Coffee Hour」(以下、コーヒーアワーと省略)を企画・運営する団体である。外国人留学生や日本人学生に新たな出会いと新たな繋がりを作る場を提供することを目的として、2005年後期に発足した。以後、イベント内容に工夫を凝らし、活動記録のテンプレートを作成して組織運営を円滑化することで、イベントだけでなく組織としての規模も大きくなってきている。2014年度は、アットホームな雰囲気を大事に楽しく発展することを目標に活動し、広報活動にも力を入れた。また、特別企画プレゼンテーションアワーも行った。

##### 1.1 理念

留学生や一般学生をはじめとする様々な文化的背景を持つ人たちに、学内での交流の場を提供することを目的としている。それぞれの文化的背景を考慮した、誰もが楽しめるイベントができるよう心がけている。

##### 1.2 特徴

- ・有志の学生が中心となって活動を行っている。(学部・学年は問わない)
- ・誰でも参加できるオープンなイベントを基本的に各学期3回、月に1度のペースで開催できるよう企画・運営をしている。参加者同士が話すきっかけとなるようなテーマやアクティビティを設定している。

##### 1.3 メンバー構成

杉森州平 (国際開発研究科 2年)	年コース)
黒川綜太 (工学研究科 1年)	井上美里 (文学部 3年)
アブマ メラド (工学研究科 2年)	木下悟 (農学部 3年)
櫻庭優 (農学部 4年)	清美樹 (工学部 3年)
Emre Orhan (G30 工学部 1年)	山田貴之 (工学部 3年)
Merve Dağ (日本語日本文化研修 1	森下実佐都 (情報文化学部 3年)

神谷柚衣（経済学部 2 年）  
後藤藍弓（経済学部 2 年）  
ウィターナ ヴェスマ キスミニ  
（工学部 2 年）  
田口文音（農学部 1 年）

Yui Pavinee（NUPACE 夏帰国）

## 2. 活動紹介

### 2.1 活動について

#### ■ミーティング

週に1度（毎月3～4回）の頻度で行い、企画シートをもとにして、その月のコーヒーアワーのテーマや内容、役割分担、会場のレイアウトなどを決めている。各ミーティングでは、議事録を作成し、メーリングリストで流して情報を共有している。

#### ■広報活動

各イベントのポスターを、各学部および研究科・国際教育交流センター・生協・食堂などに掲示した。また、留学生相談室から学内の留学生担当者に依頼し、イベント告知のメールを流してもらった。さらに、新しく Facebook ページを作成した。イベント前日に更新することでイベント周知を図った。

### 2.2 コーヒーアワーについて

#### ■当日の動き（目安）

15:30 国際棟給湯室にてコーヒーを準備  
16:00 会場で企画シートに沿って設営開始  
16:15 受付開始  
16:30 イベント開始  
18:00 イベント終了、片付け  
18:30 振り返りミーティング

#### ■本年度の工夫点

前期は4・5・7月、後期は10・11・1月に臨機応変にイベントを行った。6月は名大祭フリーマーケットの準備などがあり、12月は特別企画プレゼンテーションアワーがあったためである。参加者にテスト期間に入る7月、1月はイベントがないのかとよく聞かれていたのでちょうどよかったのではないと思う。また両月

ともテスト期間ということで、準備が比較的簡単なアクティビティを設定する工夫ができた。

また、1月と2月に1回ずつスタッフ募集説明会を開催した。合わせて約15名の参加者があり、コーヒーアワーの活動に興味を持っていただくことができた。

### 3. 年間行事記録

#### 【4月のコーヒーアワー】

文責：後藤藍弓

「うそつき自己紹介」

- ・ 日時・場所：4月24日（木）16:30-18:00 @国際棟1階ラウンジ
- ・ 参加人数：約110人
- ・ イベント概要

参加者に自己紹介のためにいくつか文章を作ってもらい、その中に1つだけある嘘の内容のものを相手にあててもらおう。

- ・ 実施した感想

Facebookを利用した広報のおかげか、参加者が110人を超えとても大規模なコーヒーアワーとなった。イベントの内容としては誰にでも声をかけやすいものだったので、学期始めのイベントにちょうど良かった。また、プロジェクターを使ったり、音楽を流したりしたのも良い雰囲気につながった。

- ・ 気づいたこと（改善点など）

100人を超えると、ロビーがいっぱいいっぱいになってしまい、移動が大変でその場にいる人としか交流できないなどの難点もでてきた。学期始めのイベントはロビーより広い会場で行うようにしたほうがよい。コーヒーアワーのFacebookページのQRコードを受付に置いておくと、興味のある人に次回の広報もできるようになる。ドリンク、お菓子の量などが人数に対して少なかった。学期始めのイベントはいつもより多めに用意しておくようにすることが望ましい。

#### 【5月のコーヒーアワー】

文責：森下実佐都

「俳句作り、しおりづくり」

- ・ 日時・場所：5月27日（火）16:30～18:30 @国際棟1階ラウンジ
- ・ 参加人数：約70～80人

- ・ イベント概要

会場にしおり作りブースを設営し、折り紙や色ペンなどを使用してそれぞれしおりを作成した。また受付でワークシートを配布し、日本文化の一つである俳句作りに挑戦した。俳句についてはわからない留学生のために初めに簡単なプレゼンテーションを用意したり、英語での俳句の作成方法を事前に調べて、参加しやすいように工夫した。

- ・ 実施した感想

しおり作りについては、それぞれ個性のあるしおりを作ることができ、またお互いのしおりを見せ合うことで交流のきっかけになっていてよかった。

俳句作りについては、日本の文化的な内容であり、特に留学生と日本人との交流がしやすい内容になっていたと思う。参加人数がある程度多かったが、俳句はワークシートのみの準備で誰でも参加することができて、お互いの俳句の見せ合いや終盤の発表によって交流が深まりよかった。

- ・ 気づいたこと（改善点など）

二つの内容を同時に行ったため、今回はしおり作りの参加者が少なく、多くは俳句作りに参加しているようだった。しかし、しおり作りの材料を使って俳句を書き、デコレーションするなどの工夫も見られたのでよかったと思う。内容を日本的なものにすることで参加者同士の交流が増えることが分かったので、今後の参考にしていきたいと思う。

## 【7月のコーヒーアワー】

文責：杉森州平

「アート・カフェ」

- ・ 日時・場所：7月3日（木）16:30～18:00 @国際棟1階ラウンジ

- ・ 参加人数：約110人

- ・ イベント概要

全体のテーマをアート・カフェとし、うちわ作りと落書きの二つのコーナーを用意した。うちわ作りは、近年コーヒーアワーの夏のイベントの定番となってきた「縁日企画」の一部として開催することが多いが、今年は趣向を変えて行った。骨組みや用紙はスタッフが用意し、参加者に好きな用紙を選んでもらい、自由に絵なども描いてもらった。今回はそれに加えて、大きな模造紙をラウンジの壁や柱に貼り、参加者が自由に落書きをできるスペースとした。

- ・実施した感想

当日は雨が降っていたにもかかわらず参加人数が多く、全体的にかなり盛り上がったイベントとなった。うちわ作りが初めてコーヒーアワーのイベントに参加した人などによってワークショップとなり、馴染みやすい雰囲気を出すことができた。

- ・気づいたこと（改善点など）

開催時期が真夏であるということもあり、普段のコーヒーアワーで出しているお菓子だけでなく、凍らせたゼリーを出したところ、非常に好評だった。また、受付の位置を参加者が入っていきやすいように工夫したところ、以前より人の流れがスムーズになった。今回、参加者が100人を超え、かなり大規模なイベントとなったが、人多すぎるため身動きがとりづらく、結果として参加者同士のコミュニケーションが阻害されてしまうこともあった。安全についても考慮し、想定される参加人数に合わせて、開催場所を変えた方が良いという意見が挙げられた。



### 【10月のコーヒーアワー】

文責：井上美里

#### 「自己紹介ビンゴ」

- ・日時・場所：10月30日（金）16：45～18：00 @フレンドリー南部
- ・参加人数：約70～80人
- ・イベント概要

毎期最初の恒例の自己紹介系アクティビティとして自己紹介ビンゴを行った。前回使ったビンゴシートに改良を加えて使用した。ビンゴ先着6名には景品として和風柄のクリアファイルを用意した。また、新たに留学生がたくさんやってくる10月の回は毎年参加者が多すぎて国際棟のラウンジでは身動きが取れない状態だったので、今回はフ

フレンドリー南部に会場を移した。そのため、イベント開始時刻を通常より 15 分遅らせ、国際棟前には誘導のスタッフを配置した。終了時刻は片付けや清掃のため通常通りとした。

・実施した感想

フレンドリー南部でイベントを行うという初の試みで、人が集まるか、うまく誘導できるか、設営に時間がかかりすぎないかなどの懸念点があったが、実施してみると、準備からイベントの進行まで非常にスムーズに行うことができた。ミーティング回数を増やし役割分担や対策をしっかりとしておいたためもあるが、チームワークが良く一人一人が自分の役割以上のことをできるコーヒーアワー持ち前の強さが発揮されたのではと感じさせられた。会場が広いので流動的で、司会の声も通りやすく、お互いの声が聞き取りづらいということもなく良かった。会場は明るく、荷物置き場もあり、お菓子も補充しやすいなどメリットがたくさんあった。また、景品がなくなったあともたくさんの方がビンゴを楽しんでくれていた。

・気づいたこと（改善点など）

会場がフレンドリー南部ということで机や椅子が多く、位置も決まっているため、設営と片付けに人手が要り大変だった。とはいえメリットは多かったしうまく進行できたので、これからは会場候補にフレンドリー南部も追加し、テーマによって会場を決めていきたい。また、秋口とはいえまだまだ冷たいものが人気で、冷たいドリンクが足りなくなってしまったので多めに購入しておきたい。

**【11月のコーヒーアワー】**

文責：清美樹

「しおり作り、おすすめの本紹介」

・日時・場所：11月28日（金）16:30～18:00 @国際棟1階ラウンジ

・参加人数：約30人

・イベント概要

拾ってきた落ち葉や折り紙やペンを使って台紙をデコレーションし、ラミネートしてしおり作りをした。話をしながらしおり作りをし、交流を深めた。しおり作りが終わったら自分のおすすめの本を紙に書いて壁にはった。

・実施した感想

一昨年も同テーマでイベントを開催し、好評だったことから、今年度の実施が決まっ

た。普段は落ち葉を拾ったり、しおりを作ったりすることがないため、参加者も興味をもってくれた様子だった。会場の机の配置を参加者が顔を見合わせられるような配置にすることで、自然と会話が弾んだ様子だった。本紹介も日本文学、英米文学、フランス文学など様々な種類の本があがり、とても興味深かった。

#### ・気づいたこと（改善点など）

しおり作りでは、ラミネートのやり方が分かりにくいため、スタッフ全員が把握していることが重要だと感じた。また、作業の際のハサミやペンを共有することで近くの人とコミュニケーションをとる良い機会になっていた。本紹介では、紹介された本をフェイスブックにあげたことでイベント中に全部確認しきれなかった人に伝えることができ良かった。また、イベントの最初と最後に次回のイベントの日時を知らせるとよい広報になる。



#### 【1月のコーヒーアワー】

文責：井上美里

「かるた、福笑い」

- ・日時・場所：1月22日（木）16：30～18：00 @国際棟1階ラウンジ
- ・参加人数：約30人
- ・イベント概要

カルタコーナーと福笑いコーナーを設け、自由に参加してもらった。カルタは数種類を用意し、福笑いは、手ぬぐいで目隠しをして顔のパーツをペンで描いてもらう形にした。最初はスタッフがそれぞれのテーブルについて、やり方などを説明してサポートした。

#### ・実施した感想

テスト前だったためか人数が30人と少なめであったが、盛り上がりながらもものんびりとして喋りやすい雰囲気になった。カルタには世界の国がテーマのものがあり、自分の国を探すなど留学生に人気を博した。読み手になりたいという留学生も多く、日本語の練習になった。対照的に福笑いは日本語があまりわからない人でも楽しむことができ、バランスの良いイベントとなった。

・気づいたこと（改善点など）

カルタは子ども向けの簡単なものだったので、日本語のあまり得意でない留学生にはちょうど良く楽しめたが、日本語ができる留学生や一般学生には物足りなさそうであった。次回は、上級用のカルタとして、日本のことわざや慣用句がテーマのカルタや、百人一首を取り入れてバランスを取りたい。また、お菓子をハラールとノンハラールの皿に分ける新しい試みができたので、今後も続けていきたい。途中でお菓子が足りなくなってしまったので、時間差で提供するとよい。



【コーヒーアワー特別企画】

文責：杉森州平

「プレゼンテーションアワー ～世界が広がる 22 秒～」

- ・ 日時・場所：12月5日（金）16:30-18:30 @国際棟1階ラウンジ
- ・ 参加人数：約40人
- ・ イベント概要

コーヒーアワーの特別企画として、6月頃より約半年間準備を続けたプレゼンテーションのイベントを開催した。プレゼンターは22枚のスライドを用意し、それを1枚につき22秒で話し、全体で8分4秒を使いプレゼンを行うという特殊な形式を採用した。学生プレゼンター4名、外部プレゼンター2名の合計6名が登壇し、そのうち外部プレゼンター1名を含む3名が日本語で、残りの3名が英語でプレゼンテーションを行った。プレゼンテーションのテーマについては完全に自由となっており、プレゼンターはそれぞれ、趣味や取り組んでいる活動などについて話をした。本イベントでは、プレゼンターが自分の活動や興味を発信し、オーディエンスがそうしたプレゼンターの活動や考え方をすることで、参加者全員の世界を広げていくことを目標としていた。また、プレゼンターとオーディエンス、もしくはオーディエン

ス同士がプレゼンテーションを通して交流を深めることも目的としていたため、プレゼンテーションの間の休憩時間を長く取り、参加者が会話をしやすいようにしていた。また、コーヒーやお菓子を用意し、会場のレイアウト、照明、休憩時間に流れる音楽などを工夫することで、参加者がくつろぎながら話ができるような雰囲気を作り出した。

- ・ 実施した感想

プレゼンターの話はどの内容も魅力的で、オーディエンスからも好評だった。さらに、オーディエンスとして参加していた人の中からも、チャンスがあれば次はプレゼンをしてみたいという声も聞くことができた。また、会場の雰囲気づくりに成功しており、休憩時間に参加者同士が話をしている雰囲気がとてもよかった。今回のプレゼンテーションは時間に制約がある特殊なルールのもと行われたが、それによって話がまとまりやすくなっており、臨場感を持った発表となっていた。また、学生プレゼンターは全員一度リハーサルを行ってから本番に臨んでいたこともあり、それぞれ非常にクオリティの高い発表となっていた。

- ・ 気づいたこと（改善点など）

今回のイベントは参加者に好評であったため、来年度にも開催される予定となった。プレゼンテーションアワーは今年度が初めての試みとなり、手探りの状態でイベント準備が進んでいったが、来年度以降開催される時には今回よりもスムーズに準備することができると期待される。また、今回のプレゼンアワーでは留学生のプレゼンターは一人であったが、もっと増えていくと良いという意見も挙げられた。今回は通常のコーヒーアワーのイベントと比較して小規模なものになったが、プレゼンターの内容が非常に優れていたこともあり、より多くの人に参加してもらえよう、次回は宣伝に力を入れる必要がある。

- ・ プレゼンテーションアワー メンバー構成

杉森州平（国際開発研究科 2 年）

井上美里（文学部 3 年）

豊吉駿（工学研究科 2 年）

清美樹（工学部 3 年）

佐藤祥平（経済学研究科 1 年）

西亀真之（工学部 2 年）



## ★ TIME TABLE ★

Date : December 5th Fri. 16:30~18:30

Place : 国際教育交流センター IEEC 1F Lounge

TIME	PROGRAM	TITLE	LANGUAGE
16:30~16:40	OPENING		
16:40~16:55	Presentation Time 01	指輪物語の世界 ー歴史、言語、地理から紐解くミドルアースー The world of "The Load of the Rings"	JAPANESE
16:55~17:10		セラミックの多様性について Variety of Ceramics	ENGLISH / JAPANESE
17:10~17:20	Coffee Break		
17:20~17:35	Presentation Time 02	野生のきのこの世界へ Invitation from "Fungus World"	JAPANESE
17:35~17:50		Corn: A Mesoamerican Legacy	ENGLISH
17:50~18:00	Coffee Break		
18:00~18:15	Presentation Time 03 Guest Presenters	(社団法人:こころ館 Incorporated Association: Cocorokan) "支援って何だろう?の8分4秒" "What is volunteering? in 8 min 4 seconds"	JAPANESE
18:15~18:30		(国連世界食糧計画 WFP: United Nations World Food Program) "Exploring the World"	ENGLISH
18:30	CLOSING		
19:00~20:00	懇親会 / Closing Party		

#### 4. コーヒーアワーで大切にしていること・来年度への抱負

●ただ楽しいイベント、というだけではなく、参加者が自分とは違う文化的背景を持った人と交流しやすい雰囲気を作ることができるよう、いつも意識しています。なので、初めて出会った参加者同士が明るい雰囲気で話しているのを見かけると、イベントが成功していると感じます。私は今年度で卒業しますが、今後もコーヒーアワーらしい、温かく参加者の会話が弾むような雰囲気のイベントが続いていくことを期待しています。(杉森)

●今年度は学業が忙しく、あまり多くの仕事はできませんでした。そんな中で司会をやる機会が多かったのですが、司会をやるにあたってみんなが理解できるようわかりやすく説明することに力を入れました。具体的には、だらだら長い間説明してもわかりづらいので、簡潔に説明をするということに気を配りました。また、毎年同じですが、相手の立場に立って物事を考えるということを常に頭の片隅において活動しています。来年度は就活で Coffee Hour の活動に参加できる時間が減ってしまうと思うので、その中でできる限りの仕事をしようと思います。また、参加者同士がコミュニケーションをとる時間を十分確保しようと思います。これは最近のミーティングで出た話なのですが、ある参加者の方からアクティビティに時間を取られすぎて、友人を作る時間がなかったという意見が出ました。毎回参加者の方に楽しんでもらえるようにアクティビティを考えていますが、それに囚われるあまり、Coffee Hour の本来の目的である「コーヒー片手に気軽に国際交流する」ということがないがしろになってしまっていました。これからはあくまでも参加者同士の交流の邪魔にならないようなイベント作りを心掛けていきたいです。（黒川）

●イベントの計画のとき、皆が積極的だったので、一人の負担が少なかったです。そのおかげで、私も積極性が身につきました。それから、日本人と外国人の友達がたくさんできました。イベントの目的は交流であって、それ以外のお菓子やドリンク、ゲームなどはそれを支える手段だったので、皆気軽におしゃべりできるいい雰囲気になっていたと思います（Merve）

●国際交流をこんなに温かい雰囲気の中楽しめるイベントはなかなかないのでは、と思います。文化的背景などを考えて誰もが楽しめるイベントを企画することで、自分の異文化理解や毎回改良を加えていく企画の仕方を学ぶこともでき、素敵な仲間や先生方との毎週のミーティングがとても楽しいです。これからもシンプルな企画でスタッフも参加者もフレキシブルにほんわか楽しめるイベントを作っていきたいです。（井上）

●誰でもふらっと来てコーヒーやお茶を飲みながらお菓子をつまみつつ楽しめるようなコーヒーアワーが1番理想だなと思ってます。来年度は今留学している経験を活かしながらコーヒーアワーを留学生と日本人学生との交流の場としてもっと広めていきたいなと思います。（木下）

●気楽に国際交流ができるコーヒーアワーはとても素敵な場所だと思います。そんな場所を提供する企画運営に携わることで自分自身も成長できました。これからも素敵なスタッフのみんなと楽しいイベントをつくっていったらと思います。（清）

●CH では気楽に頑張りすぎずに楽しむことを意識して活動しています。企画・設  
営・運営などというとても大変そうで負担が大きい活動のように聞こえるかもし  
れませんが、本当に気楽にスムーズに運営していく雰囲気が CH にはあると思っ  
ています。私は CH の活動に参加しながら、その雰囲気の大切さを感じるようになり  
ました。当日の参加者の方々も緩い雰囲気だからこそ入りやすい、参加しやすいもの  
があるのかなと考えているので、これからもその雰囲気を壊さないよう、自分自身  
が楽しんで活動できることを意識して参加していきたいと思っています。（森下）

●後期は授業の関係でイベントにまったく参加できなかったので来期はイベント  
にも参加できるようにしたいです。来期もほのぼのとしたコーヒーアワーをつくっ  
ていきたいと思います！（後藤）

ヘルプデスク  
Help Desk

## 1. 団体紹介

### 概要

ヘルプデスクは、名古屋大学の交換留学生の学生生活を支援するための有志学生による留学生支援活動の1つ。新規受け入れ留学生を対象とし、春・秋の年2回、留学生の入寮手続きの補助や、学期の開始時約1ヶ月間、留学生からの質問・相談への対応を行う。また、留学生の要望や所属メンバーの提案に応じて、日本人学生と交換留学生の交流を促すイベントも開催する。

### 特徴

有志の学生で構成される。学年・専攻・語学力等の条件はない。海外に興味のある学生も多く、留学経験者・希望者も参加している。国際教育交流センターの教職員が、定期的かつ継続的に、適宜助言や提案を行っている。

### 活動目的

交換留学生の名古屋大学における円滑な学生生活の支援。留学生の日本における日常生活・学生生活の補助と日本人学生との交流の促進を行う。

### 2014年度年間活動

3月	前期ヘルプデスク準備 ヘルプデスク説明会 地獄の細道
4月	出張ヘルプデスク 通常ヘルプデスク
5月	ビアガーデンパーティー
6月	豆腐作り 国際交流団体合同名大祭フリーマーケット 花火大会
9月	後期ヘルプデスク準備 ヘルプデスク説明会 出張ヘルプデスク
10月	通常ヘルプデスク ハロウィンパーティー

## 2. 活動報告

### 出張ヘルプデスク（前期・後期）

交換留学生の入寮日に、学生からの質問・相談に応じる窓口を国際嚶鳴館1階ロビーに設置。入寮手続き・買い物等の補助を行う。

#### ○前期

- ・ 入寮・入学手続き補助

日時: 2014/04/03～2014/04/04, 10.00～17.00

場所: 国際嚶鳴館1階ロビー

嚶鳴館入寮学生の入寮・入学手続きを補助。嚶鳴館自治会学生及び東山レジデンスの受入を担当するACEと連携。オリエンテーション期間の日程の説明と入学手続きの為のNUAPCEオフィスまでの誘導を行う。

- ・ 買い物ツアー

日時: 2014/04/03～2014/04/04, 15.00～17.00

場所: 八事AEON

生活必需品を揃えていない留学生の、当面の生活で必要となる食料・日用品等の購入のため、寮近くのショッピングモールへ案内。

- ・ 夕食ツアー

日時: 2014/04/03, 18.00～20.00

場所: ダイニングフォレスト

大学の学生食堂の案内と利用方法の紹介。

- ・ ウェルカムパーティー

日時: 2014/04/04, 19.00～21.00

場所: 国際嚶鳴館1階ロビー

円滑な寮生活の為の日本人学生と留学生との交流を主目的とし、その他日本人・新旧交換留学生の交流の場を提供。

○後期

- ・ 入寮・入学手続き補助

日時: 2014/09/24～2014/09/26, 10.00～17.00

場所: 国際嚶鳴館1階ロビー

嚶鳴館入寮学生の入寮・入学手続きを補助。嚶鳴館自治会学生及び東山レジデンスの受入を担当するACEと連携。オリエンテーション期間の日程の説明と入学手続きの為のNUAPCEオフィスまでの誘導を行う。

- ・ 買い物ツアー

日時: 2014/09/24～2014/09/25, 15.00～17.00

場所: 八事AEON

生活必需品を揃えていない留学生の、当面の生活で必要となる食料・日用品等の購入のため、寮近くのショッピングモールへ案内。

- ・ 夕食ツアー

日時: 2014/09/24～2014/09/25, 18.00～20.00

場所: ダイニングフォレスト

大学の学生食堂の案内と利用方法の紹介。

- ・ ウェルカムパーティー

日時: 2014/09/26, 19.00～21.00

場所: 国際嚶鳴館1階ロビー

円滑な寮生活の為の日本人学生と留学生との交流を主目的とし、その他日本人・新旧交換留学生の交流の場を提供。

- ・通常デスク

日時: 2014/4/7～と2014/9/29～の約一か月, 8:30～17:00

場所: 国際教育交流センター1階ロビー

新学期開始後の約1か月間、国際交流センターのロビーにあるHelpDeskで留学生の質問・相談に対応した。授業が行われる建物の教室や場所、銀行口座の開設、サークル活動に参加したいのだがどうすればいいのかななどの質問が多く寄せられた。通常デスクへの参加は強制ではないが、いつでも一人以上のヘルプデスクメンバーを待機させるために日程調整ツールを使い参加を促した。また、この期間中は週に1回ミーティングを開催し、質問されたことのシェアをし、同じ質問に皆が対応できるようにした。

- ・ビアガーデンパーティー

日時:2014/05/17, 19 : 00～21 : 00

場所:中日ビル

昨年に習い、留学生との交流を深めるために今年もビアガーデンに行った。当日は17人が集まり、親睦を深めることができた。

- ・豆腐作り

日時: 2014/06/10,16:30~19:00

場所: 国際教育交流センター中庭

今年のNUPACE学生に、ドイツ人のベジタリアンの生徒がおり、彼のために豆腐を作ることになった。日本の豆腐は美味しいが、ドイツの豆腐は美味しくないらしく、それなら自分でおいしい豆腐を作れるように作り方を教えてあげようということでこのイベントに至る。当日は15人ほどの学生が参加し、おいしい豆腐を作ることができた。

- ・国際交流団体合同名大祭フリーマーケット

日時: 2014/06/07,2014/06/08

場所: 名古屋大学 第二グリーンベルト

名大祭においてコーヒーアワー、English College、留学のとびら、ヘルプデスクの4団体でフリーマーケットを行った。不要になったものをリユースすると同時に、収益を各団体の支援金をすることを目的に行った。

- ・花火大会

日時: 2014/06/27

場所: 砂田橋駅近くの河原

留学生の間で花火をしてみたいという声が上がったため、ヘルプデスク企画で花火をすることになった。当日には30人ほどの人が花火を楽しんだ。

- ・ハロウィンパーティー

日時: 2014/10/31, 18.00～21.00

場所: 国際教育交流センターロビー

ヘルプデスクが主催の後期最大のイベント。100人以上の学生がパーティーに参加した。パーティーではお酒も提供するので年齢確認を丁寧に行った。より多くの参加者が仮装をしてくれるようにパーティーの最後にコスチュームコンテストの時間をも置き、優勝者には賞品を贈呈した。

ランゲージシャワー  
Language Shower

# Language Shower ランゲージシャワー

(2014 年度活動報告書)

## 【学生スタッフ構成】

ファシリテーター

竹内なぎ・法学部4年 (文化紹介コラボ企画)

岡田優士・多元数理科学研究科博士前期課程2年 (文化紹介コラボ企画)

太田貴都・農学部4年 (英語グループ)

加藤大輔・生命農学研究科博士前期課程2年 (英語グループ)

(他 文化紹介コラボ企画2名/英語グループ2名)

言語サポーター

María José Ramos・国際言語センター日本語研修生 (教員研修プログラム生)

## 【ランゲージシャワーについて】

プログラムとしての背景：

学内では多様な文化・言語に触れる機会がある。たとえば、様々な言語圏から来ている留学生との交流、国際交流プログラムへの参加、外国語で開講されている授業の履修など。しかし、外国語運用能力において「自信がない」、「レベルが高すぎる」と感じ、そういう機場に踏み込めずにいる人がいる。また、第二外国語として勉強してきた人、留学経験者、あるいは留学生が、習得した言語や母語で言語学習者の役に立ちたいと機会を探している場合もある。そのため、誰もが気軽に参加でき、“間違っても良いから、外国語で聞き、話し、楽しむ”場を提供できないかと、2007年度に留学生センター(現国際教育交流センター)ワークショップ“世界の言語・文化を学ぶ”において、1回のセッションが開催された。以降、プログラム名を「ランゲージシャワー(LS)」とし、学生が主体でセッション企画、運営及び実施を行うものとなった。

特徴：

練習する言語により小人数(4~5名以下)のグループに分け、その言語だけを使ってゲームに挑戦したり、身近で話しやすいテーマで会話を楽しんだりする。各グループには、会話を盛り上げるなど、コミュニケーションを助ける役割の学生ファシリテーターが1名以上加わる。

学生ファシリテーターは、各言語レベルは問わず、プログラムの企画、運営も行なうが、参加者と一緒に言語を練習しながらコミュニケーションを楽しむことができる。また、グループでの役割だけでなく、セッション全体の司会・進行にも挑戦できる。

一般参加者には、使いたい言語の基礎知識を有していることを条件とし、セッションは（参加者の言語レベルにもよるが）、主に中級に達しないレベルの人が挑戦できる内容にしている。中上級レベルの参加者には、他の参加者のコミュニケーションを助ける役割を担ってもらうことを期待している。

また、可能である限り、その言語を母語とする、あるいは得意とする学生をプログラムの「言語サポーター」として、分からない／間違っ使用している単語や表現を直してもらう。

授業ではないので、リラックスして、間違っても良いから、自分の言葉で発語を繰り返すことで、まず自信をつけ、間違いを正しつつ同じ言語でも、癖、使う言葉に違いがあることに気づき、それを楽しんでもらう。

## 【2014 年度の活動について】

今年度は後期のみの活動であった。言語によって、活動内容、目的が違ったのが大きな特徴である。以下、英語を練習するグループ、文化紹介コラボ企画に分け、それぞれの活動概要と、ファシリテーターとしての気づきを紹介する。

### ■英語を練習するグループ

国際教育交流センターアドバイジング部門のLS コーディネーターから、“アカデミックな場で英語のディスカッションなどに不便を感じる人向け”として、企画参加の呼び掛けがあった。それにより興味を持った4名の学生が、同じく、言語サポーターとして協力を申し出てくれた1名の留学生と共に、プログラムとして、どのように企画運営できるか話し合うことから始めた。

ミーティングは4回×90分。母国で英語教師をしている留学生のアドバイスを受けながら、ターゲットを、広く一般向け（中級に達していないレベルの人向け）に変え、アイデアを出し合い、ファシリテーター、参加者の立場でシミュレーションを繰り返した。ミーティングは英語でおこなったので、それ自体が「ランゲージシャワー」でもあった。

公開セッションは3回、参加者のレベルに合わせ内容を臨機応変に修正しつつ実施した。（実施内容は、【2014 年度公開セッション記録一覧】を参照）。

## ファシリテーターとしての気付き

### \*活動全体

名大生はある程度高い英語力を持って入ってきているため、リーディングやライティングに関しては高い能力を持っているが、スピーキングに関しては日常会話さえもうまく出来ない学生が多いように感じる。留学でもしない限り英語でしゃべる機会がほとんどないため、スピーキングがいつになっても上達しないのは当然だ。実際、今回の参加者の多くは留学経験が無く、ほとんど話せないが、もっと英語を喋れるようになりたいと思い参加してくれた学生が多かった。活動をしていて感じたことは、普段リーディングの際には困らない単語でも、いざスピーキングをするととなると詰まってしまうことが多いということだ。しかし、日常生活で使う様な単語や文法は簡単なものが多く、繰り返し練習をすることでかなりの言葉が英語でしゃべれるようになる。今回参加してくれた学生も回を重ね、失敗を繰り返すことで大幅にしゃべる能力が付いたと思う。特に失敗することを恥ずかしがらず、積極的にチャレンジしていた学生の方が上達していたように感じた。活動を終えて参加者に話を聞くと、大学で普通に授業を受けているだけではなかなかスピーキングの練習をする機会が無いため、今回の活動はとても貴重な経験になったということだった。3回だけではなく定期的に行ってきたいという声が多かった。3回とも10人以上の参加者が集まり、毎週やっていきたいという声が多かったことから、今回のような場の需要は高く、こういう機会を増やしていけたらと思う。

(英語グループ 太田)

- \* 参加した動機は、英語を使う機会を求めている方に自由に英語を使える機会を提供したいと思ったからだ。

実際に参加してみたところ、やはり不特定の参加者に満足していただける活動内容を構築するには事前の準備と内容のブラッシュアップが大事で、そのためには活動のターゲット層などをしっかりと定めることが必要だと思った。今後はこういった活動が増え、より多くの学生が参加できるようになると素晴らしいと思う。

(英語グループ 加藤)

## ■文化紹介コラボ企画

前年度に活動した中国語グループの学生ファシリテーターと、日本語の練習および中国語学習のサポートを希望する留学生が、国際教育交流センター主催の「世界の言語・文化を学ぶ」ワークショップと協同し、これまで専門家による講義と実践で紹介された内容を捉え直し、文化紹介を行った。

公開セッションとしては1回であったが、準備・発表練習のため、4回のミーティングを設け、また、個々に自主学習・練習を行った。

取り扱ったテーマは「書道」。これは、墨と筆で文字を書く文化は、日本、中国、その他アジアの一部国・地域にあるものだが、日本の書道として、日本語、中国語、英語の三言語を用い、主に留学生に講義と実践で紹介した。

各言語、中上級者レベルの能力が必要であるが、新たなLSの活動として、今後の展開が期待できる。

### ファシリテーターとしての気付き

\* 今年度は例年のランゲージシャワーの活動とは違い、ワークショップとのコラボということで多言語で書道文化を紹介したが、みんなの前で外国語を使って発表するという日本ではなかなかできない経験ができて良かった。

また、発表内容を自分たちで考えアレンジしていったので、外国語のみではなく書道そのものも学ぶことができ良かったと思う。少し残念だったことは、発表が一回きりだったこと。時間的には厳しいとは思いますが、今回の経験を活かしてほかの文化紹介もできたら良かったかなと思った。今までのランゲージシャワーは言語を学ぶことに重点を置いていたが、今回は言語を使うということが重点になっていたので難易度は少し高かったと思う。今後のランゲージシャワーの取り組みとして、参加者に合わせたレベル設定が大切だと思う。もし参加者のレベルが高ければ、今回のような言語を使う機会が多い方がいいと思った。

(中国語担当 岡田)

### \* 活動に参加した動機

外国語の学習を継続的に行っており、自分で勉強するだけでなくそれらを実際に使う場面があればと思っていたからである。また、外国語で日本文化を留学生に紹介するという企画で、自身も留学を経験した身として、名大の留学生の方々にその国の文化に触れるという貴重な経験を少しでもしてもらえたらと思ったからである。

\* 良かった点

- ・あまり自信がなかった英語で原稿を作り話すのは難しかったが、非常に勉強になった点
- ・それぞれが母語ではない言語で話すということで大変だったが、お互いに得意な言語で直し合ったりして助け合えた点
- ・これまで中国語のLSに参加していたが、3カ国語となりさらに面白かった点
- ・言語だけでなく、書道についても深く学べた点
- ・思っていたよりもたくさん参加者が来てくれた点
- ・留学生のみなさんが、楽しそうに書道を体験してくれた点

\* 思ったこと

ランゲージシャワーの、勉強している外国語を使ってみるというコンセプトと、日本文化を紹介するというワークショップの良い点がコラボした素晴らしい企画だと思った。発表者の私たちはもちろん、留学生の方にとっても文化だけでなく言語に触れる良い機会になったと思う。これからも定期的開催されたら双方にとって素晴らしい企画であると思った。「書道」とはどのような芸術かという、日本人でも普段あまり考えないような根本的なところから解説をし、体験までできたのは非常に良かった。

(英語担当 竹内)

【2014年度 公開セッション記録一覧】

(英語を練習するグループ)

日時・場所	セッションテーマ	参加人数 (ファシリテーターを含む)
11月20日 14:45-16:15  国際棟 301 教室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>Find Someone Who</b> 疑問文を作って、会話することを繰り返す。</li> <li>・<b>Think Fast</b> 与えられたキーワードについてゲームを取り入れて即座に回答する。</li> <li>・<b>Introduce ourselves</b> シートを使って自己紹介・他己紹介。</li> </ul>	11名
11月27日 14:45-16:15  国際棟 301 教室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>Being that person and Mingle with People</b> 有名人になりきり、パーティーを想定して会話する。</li> <li>・<b>Telling the story</b> パラグラフ毎に切り離され、ランダムに配られたものを読み合い、ストーリーを順序立てる。</li> <li>・<b>Arrange the story of Cinderella</b> シンデレラを題材に、グループごとにアレンジを加え、即興で演じて発表する。</li> </ul>	12名
12月4日 14:45-16:15  国際棟 301 教室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>Illustrate that person</b> 自分の特徴をシートに書き、ランダムに配付。それを受け取った人がイラスト化する。</li> <li>・<b>Fortunately/Unfortunately</b> ある一文から始め、fortunately, unfortunately で交互に文を繋げる。</li> <li>・<b>I like/dislike/do/not do...how about you?</b> 単語が書かれた紙をランダムに配付。一人ずつそれについて語り、次の人に繋げる。</li> <li>・<b>Discussion</b> テーマを一つ選び、自由に意見交換。</li> </ul>	10名

ファシリテーター・ミーティング：(全4回)

10月23日～11月13日 毎週木曜日 14:45-16:15 国際棟 301 教室

# LANGUAGE SHOWER

## Let's speak, listen and play with various topics in **Foreign Languages**

Language Shower (LS) is the program for those who have the basic knowledge of the foreign language but are not confident of command over it. Why don't you practice it in a small group without worries about making mistakes? We look forward to your participation.

**This semester, we will make groups to practice  
ENGLISH**

**Date & Time:** Nov.20, 27, and Dec.4 (Thurs.), 2014  
from 14:45 to 16:15

**Place:** Room #301, International Center (former ECIS)

**Sessions are targeted mainly for** learners of English at pre-intermediate level (503-543(PBT) / 177-203(CBT) / 61-76(iBT) on TOEFL Score or 590~690 on TOEIC).

(Those who study English at intermediate or higher level are also welcome as supporter!)

### **Registration is necessary**

Please send an e-mail with (1)your name, (2)school/grade(status)  
(3) nationality (4) level of English

**\*Due to the capacity of the room, the number of participants would be limited.**

**E-mail for registration & inquiries:** [adv@iee.nagoya-u.ac.jp](mailto:adv@iee.nagoya-u.ac.jp)  
Advising & Counseling Services of International Education &  
Exchange Center, Nagoya University)

**•Organized by•**  
Nagoya University Language Shower Student Volunteers,  
and  
IEEC Advising & Counseling Services (#739, West-wing of IB Bldg),  
Nagoya University

(文化紹介コラボ企画)

国際教育交流センターアドバイジング部門主催 ワークショップ「世界の言語・文化を学ぶ」でこれまで複数回取り上げてきた「書道」のセッションをベースに、書道文化を捉え直し、講義と実践で紹介。

紹介者：ランゲージシャワー学生ボランティア：

使用言語：日本語（中国人学生）、中国語（日本人学生）、英語（日本人学生）

参加留学生数：12名

(IEEC WORKSHOP Autumn 2014)

## Sho-do (Japanese Calligraphy)

What is Sho-do?

How do we write letters by brush and ink?

This session is collaborated with Language Shower Program to practice foreign languages without fears of making mistakes. Students who have learned about this culture will try to introduce it by a simple lecture and practice in foreign languages. Please come and enjoy Sho-do with us!

Date & Time: November 25 (Tue.), 2014, 14:45~16:15  
Place: #201 (2F, International Center (former ECIS))  
Number of Participants: 20 / Participation fee is free  
Language to use: English, Chinese and Japanese

**Registration :** Please send an e-mail to [adv@iee.nagoya-u.ac.jp](mailto:adv@iee.nagoya-u.ac.jp) with your name and school name. International student's/academics' family members over 18 years old and Japanese staff & students will be welcome too (Priority goes to international students).

書道とは？

筆と墨で、どうやって文字を書く？

このセッションは、間違いを恐れずに外国語を話すランゲージシャワープログラムと共同しています。書道について学んだ学生たちが、簡単な講義と実践により多言語で紹介します。ぜひ、書道を楽しみに来てください。

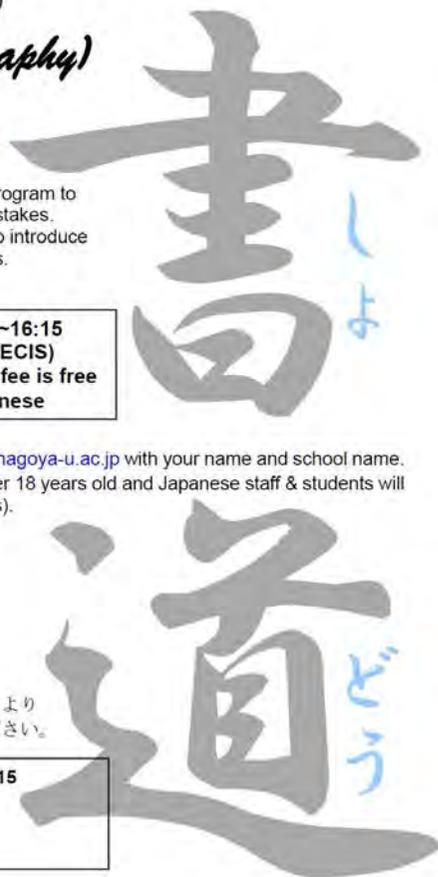
日時: 2014年11月25日 (火), 14:45~16:15  
場所: 国際棟 (旧留学生センター) 201 講義室  
参加人数: 20人 / 参加費無料  
使用言語: 中国語、日本語、英語

**参加登録 :** 氏名と所属を書いて、[adv@iee.nagoya-u.ac.jp](mailto:adv@iee.nagoya-u.ac.jp) までメールしてください。

18歳以上の留学生/外国人研究者のご家族や、日本人学生・スタッフの参加も歓迎しています (留学生の参加が優先されます)。

**【Organizer 主催】**

Nagoya University Language Shower Student Volunteers and  
Advising & Counseling Services of International Education & Exchange Center  
名古屋大学ランゲージシャワーボランティア学生、国際教育交流センター アドバイジング部門  
(#739, West-wing of IB Bldg.) [adv@iee.nagoya-u.ac.jp](mailto:adv@iee.nagoya-u.ac.jp) TEL:052-788-6117



留学のとびら

Gateway to Overseas Studies

# 留学のとびら

2014 年度 活動報告書

(文責：黒田浩暉、村瀬明里)

## 留学のとびらについて

留学に興味・関心のある学生が主体となり、名大生の派遣留学を推進する団体である。国際教育交流センター・海外留学室が母体となり、イベントを企画・運営するという活動を通じて、多様な背景を持つ留学仲間をつくり、自立した団体運営ができるようになるための手法を学べることが大きな特徴である。

## 活動理念

- ・一人一人が個性とリーダーシップを発揮し、互いの成長を刺激し高め合える団体。  
そして、大学生生活の充実を支えられるような笑顔あふれる団体。
- ・留学を希望する名大生に、情報入手・交換の場を提供し、自らが見本となることで、彼らのモチベーションを上げ、実行へ繋げていく。

## 設立の経緯と活動の流れ

2009 年に留学より帰国した学生が設立した「留学のとびら」であるが、2010 年より主要メンバーが卒業ならびに進学のために活動が難しくなった。そのため、海外留学室が主体となり、2010 年 12 月に新たにメンバーを募集して再設立したのが現在の「留学のとびら」である。

構成メンバーのほとんどが留学する学生であったため、2011 年度、2012 年度とも主要メンバーの入れ替わりが激しかった経緯がある。2013 年度では 2012 年度の主要メンバーの半分以上が卒業してしまったために、前期の活動中留学帰国者や友人の中から新メンバーを募集した。

2014 年度は、新たに 2 年生が 3 人入り、そのうちの 2 人が共同で代表を務める体制をとっている。今年度も主要メンバーが卒業してしまうので、下の学年のメンバーへの引継ぎを行っているところである。

## メンバーについて

今年度の主な活動メンバーは以下の 20 人である。2 年生は後期から参加。

4～11 月は 4 年の手島信道が、12 月からは 2 年の黒田浩暉と村瀬明里が代表を務める。

2 年 5 人

3 年 6 人 (内 3 人は後期から留学。1 人は帰国し活動に参加している。)

4年 6人（内4人は今年度卒業）

M1 2人

M2 1人（今年度卒業）

### ミーティング

週に1度1時間程度行っている。

今後のイベントの計画・相談や、実施したイベントの反省を行う。

## 2014年度前期

### 実施イベント

#### ○名大生のための海外留学フェア

今回で8回目。

留学から帰ってきたばかりの人の新鮮な話を提供。

帰国者に自身の体験を振り返る機会にしよう。

\*実施日 6/18(水)15～18時

\*内容

<パネルディスカッション>

パネリスト5人（アメリカ2人、トルコ1人、スウェーデン1人、中国1人）

ファシリテーター1人

質問内容

辛かったこと、苦労したこと

派遣先で履修した科目、一日の過ごし方 など

<フリートーク>

派遣地域ごとに分けてブースを作った

\*反省

・メンバー内での仕事の分担・連携が上手くいかず、チラシの回収忘れが生じたりした。

→日ごろから各人の仕事を明確にし、報告する習慣をつけることが大切である。

・フリートークでは、留とびメンバーはオーガナイズにフォーカスすべきだった。

パネルディスカッションに関して

・話にあきる。質問内容をクローズにするべき。1つのテーマに全員回答する必要ない。

→事前打ち合わせで回答の尺を合わせる。パネリストの数を減らす。

#### ○名大祭フリーマーケット

グローバルネットワークでの共同出店。

## ○留とびアワー

今年度からの新たな取り組み。

毎週木曜日お昼休みにテーマを決めて開催。前期は2回。

### ・6/26 英語の試験について

オーストラリア留学予定のメンバーによるプレゼン

参加者3名。広報の必要性。

### ・7/3 留学と就職

アメリカ留学経験のあるメンバーによるプレゼン

参加者10名。リマインドの効果有り。

反省：

留とびメンバーの負担と参加者の人数などの効果を考慮する必要有り。

海外留学室と連携を深め、広報に力を入れる。

## 2014 年度後期

後期は、名古屋大学の交換留学についてのイベントの企画が主となった。交換留学の第一次締め切りが10月末ということもあって、後期開始当初から交換留学に行く学生を一人でも増やせるようにイベントを実施していった。イベントの形式としては、留学のとびらのメンバーや実際に交換留学に行ってきた人がプレゼンなどを通して、交換留学に興味がある人、これから交換留学に行く人たちに対して、情報提供をする「留とびアワー」と、交換留学に興味がある人やこれから交換留学に行く人たちが留学のとびらのメンバーに対して、留学に関する悩みや不安、疑問などを自由に質問することができる「留とびランチ」の二つがある。実施したいイベントの内容に応じて、これら二つの形式を使い分けながら、お昼の時間を使って、留学に関するイベントを実施した。これらのイベントの企画段階では、当初はメンバー全員でのミーティングにおいて、意見を出し合い、一つ一つのイベントの内容を決めていたが、効率的なイベント策定のために、イベントごとにグループを作って、そのグループごとにイベントの計画を進めていくという形にシフトした。これにより、全体ミーティング以外でも、イベントの計画を進めていくことができるようになり、全体ミーティングでは、アイデアの出し合いやイベントにおいて留学のとびらとして決める必要があることを話し合うことに時間を割けるようになった。組織としては、新たに2年生の留学のとびらの代表を決めて、新代表が来年から留学のとびらを引っ張っていけるように、前代表や3、4年生メンバーによる引継ぎを行い、次年度からの活動に支障が出ないようにした。また、以前として留学のとびらのメンバーは高齢化傾向にあり、1、2年生の割合が比較的小さいので、来年の活動がメンバー不足で滞ることがないように、リクルーティングを行っていく必要がある。

## 実施イベント

### ○留とびアワー

時間：12:10～12:45

内容：

- 「留学先の大学選びのポイント」 (10/9)
- 「留学際の大学の授業について」 (10/16)
- 「アジア留学へのすすめ」 (12/4)
- 「私が交換留学を決めたきっかけ&留学への意気込み」 (12/11)

### ○留とびランチ

時間：12:10～12:45

内容：

- 「願書についての相談会」 (10/23)
- 「留学経験者との相談会」 (10/30)
- 「交換留学 面接相談会」 (11/6, 13, 20)
- 「2次募集に向けて」 (12/18)
- 「クリスマスパーティ」 (12/25)

## 参加イベント

### ○英検協会主催 東海地区海外留学フェア

日程：2014年11月22日(土)

時間：11:00～17:30

会場：名古屋大学 豊田講堂シンポジオン

内容：英検協会が主催する東海地区海外留学フェアにおいて、名古屋大学の海外留学室に与えられている個別ブースをつかわせていただき、名古屋大学の海外提携校の紹介をした。このイベントは、参加対象が多岐にわたっており、世界中の大学と強固な提携関係を有する名古屋大学の魅力を学外に発信する絶好の機会であった。特に、今後名古屋大学を志望する可能性のある中高世代に対しての有益な情報提供の場となり、かつ将来的に名古屋大学から海外の協定校へ留学する学生数を増やすことにつながるイベントであった。このイベントでは、アメリカ、カナダ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランドを紹介する対象国としており、エースやヘルプデスクなどの組織にも協力をしてもらいながら実施した。ブースでは、その国の文化を疑似体験することができるようなことや英会話教室、ボードゲーム、ハロウィンを行った。また、留学中に使った教科書や海外の大学の風景の写真を参加者に見せたり、海外の大学のスポーツの紹介や日本の著名人の留学先のマップを見せたりした。このようなプログラムを通して、参加者

に対して、資料だけの情報提供にとどまらず、留学の具体的なイメージをより明確にする一助になったと思う。

### 後期の反省

後期は留とびアワーや留とびランチなどの、交換留学に興味がある人・交換留学に行く人向けのイベントを多く企画して、行ってきた。しかし、これらのイベントを実施していく中で問題となったのが、参加者の人数の少なさである。実際、留とびアワーの参加者は、2、3人ということもあり、時には0人というときもあった。留とびアワーの企画に協力してくださる、留学のとびらのメンバー以外の方々に対する失礼がないように、これは解決すべき問題であると考えます。今後は、イベントの広報の仕方や、毎回のイベントの反省によって、この状況を改善していこうと考えている。

### 来年度への抱負

留学のとびらの存在意義は、「留学に関する情報を提供し、名古屋大学から一人でも留学に行ける人を増やす」ことである。しかし、現在のイベントの大部分を占める留とびアワー、留とびランチにおける参加人数が少なくなっている今の状況では、この存在意義を達成することも危うくなってきている。この状況を改善するために、対外的な広報活動のやり方を考え直し、これらのイベントをなるべく多くの人に利用してもらえようようにしていきたい。

MEIPLES

名古屋大学グローバル・リーダー育成プログラム

The MEIDAI Program for Global Leaders

IF@N

名古屋大学国際学生フォーラム

The International Students Forum

at Nagoya University

# 名古屋大学グローバル・リーダー育成プログラム MEIPLES

## 第5回名古屋大学国際学生フォーラム IF@N

### 2014年度 活動報告書

編集 藪下ももこ

#### 1. はじめに

Globalization の状況下、グローバルなビジネス環境の中で、国内外を問わずリーダーシップを発揮できる人材が求められる時代となった。そんなグローバル・リーダーに必要なあらゆる知識やスキル、能力を身につけるチャンスを与えてくれるのが名古屋大学グローバル・リーダー育成プログラム (MEIPLES) である。このプログラムは、前期・後期と、一年を通して行われる活動である。

前期は、グローバル・リーダーに必要な知識・スキルを体験的に学ぶための講義が行われる。事例を用いたり、自分の体験を振り返ったり、アクティビティを通して自己や他者を理解したりと、さまざまな体験を通じて、グローバル・リーダーに必要なコミュニケーション力、創造力、実行力、戦略性、人間性を学び、身につける機会となる。

後期は、国際学生フォーラム (IF@N) の企画運営をする。IF@N とは、留学生・日本人学生による一日がかりの討論会であり、そこでは様々なトピックについて学生参加者がディスカッションを行うものである。MEIPLES のメンバーはフォーラムの企画・運営・ファシリテーション・報告書の作成まで全てを自分たちで行う。ここでは、講義を通じて学んだ能力を活かしていくと同時に、仲間と共に何かを成し遂げることの困難さ、楽しさを感じながら、グローバル・リーダーとしての実践力を学び、身につけていく。

MEIPLES は、あらゆることを教えてくれる。自分の長所や短所、新しい感性や視点、仲間の存在の大切さを知る中で、自分は一人の人間としてどうありたいかを見つける機会となる。この自分の中の大きな変化が、最終的な目標である、「グローバル・リーダーとして必要な能力を身につける」の達成につながるのだろう。様々な国籍の仲間と、それぞれの色を大切にしながら、楽しく学んでいく、こんな素敵なチャンスを得る機会はなかなか無い。自分を飛躍させたいという強い気持ちのある者にはぜひ参加していただきたいプログラムである。

## 2. MEIPLES メンバー

オウ コウセキ	Hongshuo Wang	工学部
キム ジェスン	Kim Jea Seung	NUPACE 教育学部
菊池 達也	Tatsuya Kikuchi	情報文化学部
ソ ヨンア	Youg A Seo	法学部
西亀 真之	Saneyuki Nishigame	工学部
上地香社	Koto Kamiji	TA 教育発達科学研究科
高橋 温	On Takahashi	経済学部 Global 30
幡野 あづさ	Adzusa Hatano	南山大学 経済学部
ヤロシュ イジー	Jaros Jiri	環境研究科
杉川 栞里	Shiori Sugikawa	愛知教育大学 国際文化コース
藪下 ももこ	Momoko Yabushita	医学部
マリア ホセ ラモス	Maria Jose Ramos	英語サポーター 日本語研修生

## 3. 名古屋大学グローバル・リーダー育成プログラム (MEIPLES)

〈前期スケジュール〉

6月18日 (水)	第1回セミナー：キックオフ
6月28日 (土)	第2回セミナー7：外部講師によるワークショップ 〈ねらい〉 自分を知る、身体感覚とつながる、ビジョニングとパーソナル・リーダーシップ論を学ぶ。 多様な背景の仲間と共同作業をしていくための心構えやスキルを身につける。
7月5日 (水)	第3回セミナー：グローバル・リーダー像とは 自己発見と他者理解 〈ねらい〉 自己発見や他者理解を深める。 グローバル・リーダーについて考える。
8月7日 (木)	第4回セミナー：問題解決・異文化コミュニケーション 〈ねらい〉 コミュニケーション・ギャップの体験から、文化には固有の習慣や価値観があることを理解する。 問題解決体験学習を通して、何を学ぶことができるかを体験を通して知る。また、その過程で起こる様々な事柄に気づく。

9月26日（金）	第5回セミナー：これまでの振り返り 実務セミナー （議事録やアジェンダの作成方法など） IF@N 実行委員会ミーティング
----------	---

〈活動風景〉



## 4. 名古屋大学学生フォーラム (IF@N)

①各ディスカッショングループの紹介 (第5回 IF@N 報告書より引用)

### **Group A : メディア / Media**

#### SNS の活用 ～ネット社会の諸刃の剣～

急速に進化・発展を遂げている今日の SNS(Social Network Service)。SNS の使用頻度や用途は人によって異なりますが、若者を中心に確実に私たちの生活の中に入り込んできています。SNS を通してでしか得ることの出来ない情報というのもあり、今の時代を生き抜く上での必須ツールと言っても過言ではありません。また、個人での使用だけでなく、ビジネスにも活用する動きも加速しています。

一方で、子どもの利用による問題や中毒性、SNS を悪用した犯罪など、多くの負の側面を合わせ持っているのも事実です。たとえ個人による使用でも、迂闊な判断によって思わぬ社会問題を引き起こす危険性も孕んでいます。近年ではこういった諸問題が度々メディアで取り上げられています。

利点も多い反面、一步間違えると大問題に。SNS を賢く活用するためのメディアリテラシーの必要性は高まるばかりです。これからの時代を生き抜く為に、私たちはどのようにして SNS と向き合っていくべきなのか、どう活用していくべきなのかをみんなで議論してみませんか。

### **Group B : 教育 / Education**

#### 塾・習い事って必要？

あなたは何か習い事をしていましたか？日本をはじめとする東アジアでは学校教育以外での教育の選択肢が増えてきています。小さいころから水泳をして、ピアノを習い、塾で勉強してきた方も多いかと思います。

確かに、小さい時からスポーツ、音楽、言語、勉強を始めることのメリットは大きいです。しかし、その一方で金銭的な問題や、幼いうちから無理矢理子供に色々な事をさせることはどうなのかという意見もあります。一方、東アジアを除く、他の国では塾などはあまり盛んではないようです。

今、私たちはちょうど子供から大人への移行期です。自分の子供時代を振り

返り、また、大人の視点から現在の社会を見てみましょう。そして、自分の子供の教育をどうするかについて、様々なバックグラウンドを持つ皆さんと議論し考えてみませんか？

### **Group C：アイデンティティ / Identity**

Who Are You? アイデンティティはカギかクサリか

「ハーフ」「クォーター」「日系人」などの言葉に馴染みはありますか？

世界の行き来が容易になり、旅行やビジネス、留学などさまざまな目的で外国を訪れる機会が増えています。また、自分のルーツと異なる国で生活する人も少なくありません。全ての人々が、様々なバックグラウンドを持って生活しています。

私たちは周りの人々とどの様に接するべきなのでしょう？「日本人」や「〇〇人」、「外国人」などといったラベルは必要なのか、またはどの様に扱うべきなのでしょう？参加者間で価値観や経験談を共有し、アイデンティティとは何かについて考えていきましょう。

### **Group D：命 / Life**

命をどう捉えるか  
生と死について考える

近年、医療・技術の発展により、不妊治療・延命治療など様々な場面で人間の生死を選択できる可能性が増えています。一方で、生死を自らの意思で人の手によってコントロールされることは倫理的に認められていいものなのか、という問題も取り上げられています。

また、若年層の自殺も問題視されており、日本では年間約 3 万人の人が自殺によって命を落としています。あなたは人々の生死について深く考え、議論したことはありますか。

私たちは、これらの現状を踏まえ、特に最近話題になっている代理出産・安楽死・自殺の 3 つの視点で生と死についてディスカッションをしていきます。皆さんと多くの考えを共有しましょう！

②アンケート（一部抜粋）

参加者 20人（実行委員を除く） 提出枚数 20枚 回収率 100%

**★ディスカッショングループ構成（実行委員を除く）**

A. メディア	6名
B. 教育	5名
C. アイデンティティ	6名
D. 命について	3名

**★参加理由**

- 留学生や日本人と交流したかったから 13/20(65%)
- 友達を作りたかったから 8/20(40%)
- ディスカッションテーマに興味があったから 8/20(40%)
- 視野を広げたかったから 14/20(70%)
- 日本語や英語を使いたかったから 8/20(40%)
- その他 (Lack of social events held in English in the university) 1/20(5%)

**★参加者の感想**

- 楽しかった。
- 違う国の人との長いディスカッションは初だったけど、気軽に話せた。もう少しテーマを狭くしてもよいと思う。
- 小数のグループでとても話しやすく、仲良くなれました。
- ファシリテーターの力量というものは重要だと思った。あらかじめ出るであろう意見をある程度予想して、円滑に議論を進めるシミュレーションなどをして準備を詰めておいてもらいたかった。
- 英語でのディスカッションとても楽しかったです。
- もっとテーマを絞って意見をぶつけ合いたいというのはある。しかし、全体的には有意義で楽しい時間を過ごせた。
- 考えを広げる **Chance** でした！
- 色々な意見を聞いてもらってよかった。
- いいトピックを選んでくださりまして、ありがとうございました。このような活動なら、何回でも出たいです。
- トピックについて真剣に議論し合えてよかったです。
- 皆さんと自由に話せる雰囲気が一番よかったです。
- いろんな文化の人と議論をするのは新しい視点がたくさん入ってきて楽しい。
- Discussing with a group of people from many different cultures formed a

good basis to discuss Identity issues.

- It was fun and great.
- I had so good time. Thanks to facilitators!
- Stimulating

③振り返り

#### ★当日全体を通して

- 午前中は時間が少なく、タイムスケジュールが重要である。
- テーマによってはディスカッションの時間が足りないと感じた。
- 発表会では、完璧なプレゼンテーションをするのは難しいと感じた。どのような方法で発表するとよいか、考える必要がある。

#### ★活動開始から当日までの全体の活動を通して

- 準備時間は十分にある。時間を有効活用することが大切。
- 10月から定期的に全員が集まったのがよかった。
- 準備段階では、どれくらい準備したらいいのか、当日どう進めていくかのイメージが難しかった。昨年度までの実行委員の経験談を聞く機会を設けるとよいのではないか。
- 準備段階で、各分科会のアイデアを共有するためにも、ほかの分科会の資料（スライドなど）を共有する機会を設ける機会があるとよかった。
- 自主的な活動ができたことがよかった
- ポスターにプログラムなどを簡潔に記載する方が、参加者も IF@N がどんなものかをイメージでき、参加者もより気軽に参加することができるのではないか。

### 5. 実行委員の感想（一部抜粋）

- 実行委員のメンバー、IF@N の参加者共に国籍や文化が様々で、自分が思いもしなかった考えや意見を多く知り、全てがとても刺激的でした。
- どんなトピックであろうと、様々なバックグラウンドを持つ学生達が一同に集まってディスカッションをすることの価値は大きいということを再認識でき、有意義な時間を過ごすことが出来ました。
- 当日の朝から夜まで大変でしたが、時間がもっとほしいくらいに楽しい時間を過ごすことができ、よかったです。
- みなさんと感想や意見を聞きながら、実行委員に参加したことはいい経験に

- なり、絆を感じる事ができたと確信しています。
- IF@N を終えて今思うことは、MEIPLES に参加してよかったという事です。  
この活動を通して、普段の学部の授業では絶対に学ぶことのできないことをたくさん学び、成長できたと思います。
  - IF@N を終え感じるのは、やり終えた達成感とディスカッションの難しさです。
  - いろいろと思い返せば、「もっとできた」と感じる点は多々あるものの、一つのことをなり遂げた達成感がそれを上回るのは、参加者の皆様の協力あつてのことだと思います。
  - まさしく、IF@N のコンセプトである「出逢う・繋がる・広がる」を感じられたことが、大きな喜びとなって残っています。
  - Through this program this time, I feel I learned a lot about life of international students in Japan, multicultural, and significance of teamwork.
  - the International Forum @ Nagoya University proved to be different and I was able to gain many things that money couldn't buy. I was able to make new friends, engage in discussions about difficult topics with students of many backgrounds, and most of all, contribute to the school, something I haven't really done much of in the past.
  - 実際に、チームワークを通して勉強になったことが思ったより多く、また友達ができたと嬉しいです。他大学や学部、多国籍の人とこのような形で交流ができたこともすばらしいと思います。
  - 国籍・人種・大学・学部などの枠を超え、ひとつのトピックについて半日かけて真剣に議論することは、IF@N のポスターを見た時に想像していたもの以上の達成感が味わえます。
  - ミーティングを重ねて行く度に実行委員それぞれの個性を発見し、とても楽しく過ごさせていただくことができました。
  - In a friendly environment, we could interact, learn and express ideas. I would definitely participate in the next forum 2015.
  - たくさんの経験をすることができ、自身の成長につながったと感じています。
  - バックグラウンド国籍が違う他の参加者の皆さんの興味深い意見を聞くことができたことは貴重な経験となりました。

## 6. アルバム



## 7. まとめ

「出会う、繋がる、広がる」という理念をもとに、MEIPLES&IF@N は今年もさまざまな学びを与えてくれた。来年度もまた、たくさんの新しい色をもつグローバル・リーダーが多く誕生し、活躍することを願っている。

English College

## English College Annual Report

Written by Masaya Kitamura, B4 in Faculty of Letters

### 1. Members

Masaya Kitamura (a senior in the Faculty of Letters)

Georgy Buntilov (an M2 in the Graduate School of Languages and Cultures, graduated in September, 2014)

Hanni Westenius (an M2 in the School of Economics, graduated in September, 2014)

Yoshino Uete (a sophomore in the Faculty of Letters)

Tamami Katsu (a sophomore in the School of Education)

Sai Bin (a sophomore in the School of Engineering)

Maiko Mitsuya (a junior in the School of Economics)

Yosuke Sumi (a sophomore in the School of Informatics and Sciences)

Moe Suzuki (a junior in the School of Agricultural Science)

Yuki Hirose (an M2 in the Graduate School of Engineering)

Beatrix Wang (an M2 in the Graduate School of Languages and Cultures)

### 2. Activities

- Lunch English (Lunch English Discussion (LED) since October, 2014)

Day and time: lunch time (12:10~12:50) every Monday and Wednesday

Venue: Mainly in Room 207W in IEEC

Content: People sit around tables randomly (the table is assigned by members though) and have a chat over lunch. No reservation. There was no topic paper at first, and we started to use one after it became LED. The paper was prepared by members, and the topics sometimes change daily, and sometimes weekly. Overall, the topics in the period of Lunch English were really casual and informal, while they were more academic after it became LED. Another job of the members is to join each group and try to smooth the conversation when it's stagnant. The essence of the job of the members is to make Lunch English a comfortable place for the guests

- Evening Discussion

Day and time: Once a month (May 22th, June 26<sup>th</sup>, July 10<sup>th</sup> (canceled)), 16:50~19:30

Venue: Firstly in Room 207W and then move to Room 201

Content: Participants are divided into some groups and sit around each table. Firstly they break

the ice in the icebreaking game, and then start to have a discussion. After the discussion, each group have a group presentation to tell the conclusion and what they've talked about in the discussion. The event is led by a chair person chosen from the staff members. This year, the Evening Discussion in July was canceled due to an upcoming typhoon, and in the fall semester, we stopped holding one. One reason was because it took time and energy to prepare for an Evening Discussion and members had been all busy, and second is because it was highly doubtful for me whether this event is worth it. Every time we had it, the conclusions were often vague and it was true that it was a chance to speak English but not as good a chance as to prepare as well as holding Lunch English.

### 3. What English College has provided for people here in Nagoya University

English College was established in spring, 2013. As an open "English speaking" event, Lunch English has been popular among those who seek a place to speak English. Such kind of places had been provided through some English-speaking student circle, but they are usually open only to their members, so while it was easy for freshmen to join them, it's much harder for upper class students to start to join them. On the other hand, since Lunch English is open to all people, and there is a large variety in the ages, backgrounds, grades etc among the participants, it's much easier for those who've got interested in communicating in English some time after they got into Nagoya university to start to join Lunch English. Moreover, people start to get to know each other well through the activities of English College, and some of them got many friends. This is also a good point to hold such activities. Although our activities haven't been very large, it's been somewhat useful and helpful for people who like to join them.

### 4. Problems

There have been many problems around our activities which are difficult to solve. Firstly, how to make small groups and keep them small. It's impossible to expect the pace of people coming to Lunch English, so it often happened that some small number of groups become bigger and bigger. It was the best to have many small groups so that each of their member could have enough chance to speak English, but when people show up one by one, not in groups, it's difficult to make new groups, and we end up leading them to groups which have already existed and as a result, there are only a few "big" groups where it's not easy to have enough chances to speak English. When this happen, it's not easy to manage that group, eitherf.

Second difficulty was the capacity of the room. It sometimes got almost full, and it was

difficult to move around. Because of this, we decided to change the room to Room 207W so that we could use Room 207E as well. However, since it was difficult to divide people into two groups and put them into the two rooms, we ended up using only Room 207W and the problem wasn't solved. The number of participants decreased in the second semester, and the problem was automatically solved, which was not welcome, though.

Third problem was relationships among participants. Some people don't like to talk with some specific participants. Since Lunch English is open to everyone, people naturally like or dislike talking to some specific people and when they dislike, this leads to the reluctance of some people in joining it.

It's been not easy to make a good environment of speaking English. Some people have got benefits from our activities, while others have just felt stressed or bored and stopped coming. We're still not sure if it's really possible to have an "idealistic" place to communicate in English, but where there is a will, there is a way. It would be totally impossible if we were to give up. As long as somebody takes charge of English College, we'd like to continue our activities.

国際交流グループフリーマーケット  
Global Network Flea Market

## 国際交流グループフリーマーケット at 名大祭

文責：金丸太志

- ・日時・場所：6月7日、8日 名古屋大学中央図書館正面
- ・参加人数：20人前後

### ・イベント概要

国際交流団体である Help Desk、Coffee Hour、留学のとびら、English College のメンバーが協力し、各団体同士の交流や今後の活動資金を獲得のために名大祭でフリーマーケットを開催した。

昨年に引き続き物品は各団体のメンバーや先生方などから提供していただいた。様々な国のお土産やアクセサリはもちろん、ぬいぐるみやゲーム、本や日用品に至るまで様々な商品が集まり、それを出品した。当日は日本人学生以外にも留学生を含んだ多数の協力があり、非常に国際色豊かなイベントとなった。

### ・実施した感想

昨年以上に多種多様な品物が集まり、2日とも多くの来店者に恵まれたため、休憩の時間を満足に取れないくらいの忙しさであった。子供向けの商品が多かったせいかわ連れの客がとても多く、店の周りは活気にあふれていた。その他にも高額だったゲームや陶器類も殆どが売り切れるに至った。開店初日の午後のみ悪天候に見舞われ店を早々に畳んだが、基本的に2日とも炎天下の中での作業となったのでスタッフ一同の疲労は大きかったが、それでも終始店内の雰囲気は賑やかかつ和やかで、最終的な売上高も昨年を大きく上回り、私も含めスタッフ一同満足のいく結果になったと考えている。

### ・気づいたこと(改善点)

売上金は各団体の貢献度により分配することになっていたのだが、その分配の方法、そして貢献度の算出が難しく、すべての団体が納得の行く分配が出来たかどうか疑問がある。このため来年は厳密なシフト表の作成、事前準備や当日参加での貢献度の分配などを予め定めておき、その方法に従った配分を心がけるべきである。

例年先生方からいただく高額な陶器、食器類であるが今回も例に漏れず多くの高額食器を出品した。しかしフリーマーケットの上限を超える設定額のものも多く、来店した方が購入を尻込みすることも少なくなく、これら的高額商品の扱いにも(値付、販売の如何を含め)再考の余地があると言える。

上記にもあるように今回厳密なシフト表を作成しなかったため、当日参加のスタッフが時間によっては飽和、もしくは少なすぎるということがあったため、誰がどの時間に働くのかを事前に決め、当日参加のスタッフは飽くまでオブザーバーとして協力しても

思ったほうが、人数のばらつきの心配も無くスムーズに販売が進行していただろうと考えている。



異文化交流サークル ACE

Action Group for Cross-Cultural Exchange

## 1. ACE とは

文責 加藤真穂

### (1)活動概要

私たち ACE (Action group for Cross-cultural Exchange) は、「交流・架け橋・ボランティア」を三大理念に掲げ、新しく名古屋大学を訪れた留学生の新生活をサポートすることを主な活動とするサークルである。留学生をはじめとし、一般の日本人まで対象にした交流イベントも 1,2 ヶ月に 1 回程度のペースで企画・運営している。普段は週 1 回、月曜の夜にインターナショナルレジデンス東山の会議室をお借りしてミーティングを行っている。

ACE の活動資金は、主に後述の受け入れ活動に対していただく謝礼と、イベントの参加費によって賅われている。

### (2)組織

1988 年に創設され、今年度で結成 26 周年を迎えた。毎年 6 月にある「まじめ合宿」で代替わりを行っており、2014 年 6 月からは 27 代が運営の中心的役割を担っている。27 代の役職は代表 1 名、副代表 2 名、会計 1 名、広報 1 名、AFSA 班 (※1) 4 名、ACE メール (※2)・メーリングリスト担当 1 名、ホームページ担当 2 名、OneDrive (※3) 管理担当 1 名で構成されている。

各イベントの運営は毎回立候補によって決まったチーフ・サブチーフが行っている。ミーティングで企画の内容や当日の動きについて意見を出し合い、イベント終了後は反省を募って共有するという流れをとっている。

名大のみならず、南山大学、金城学院大学、椙山女学園大学、名城大学等の近隣の大学からもメンバーが集まっており、全体の人数も年々増加傾向にある。

※1 月 1 回行われる AFSA (愛知留学生会) 会議に参加し、AFSA が主催するイベントの運営に携わり、サポートを行う役職。

※2 他団体や ACE への参加希望者からの連絡に対応する役職。

※3 イベントのマニュアルや反省等をウェブ上の OneDrive で共有しており、メンバーであれば誰でも閲覧可能となっている。

## 2. 2014 年度年間活動報告

### 4 月、10 月：受け入れ活動

年 2 回、学期の初めに留学生が世界各国から新たに名古屋大学にやってくる。彼らが名古屋において新生活をうまくスタートできるよう、ACE は様々なサポート活動やイベントを行っている。この受け入れ活動が ACE の活動の中心となっている。

## (1) 入寮サポート

文責 長尾崇弘

4月と10月の2回、東山、山手、妙見の各レジデンス及び桜山にある留学生会館において留学生の入寮のお手伝いを行った。

3か月ほど前にそれぞれ担当者を決め、その人を中心に各寮の方と打ち合わせを行い、2週間ほど前に実際ACEメンバーが寮を訪れ勉強会を行い、当日の流れや注意事項を確認した。

当日、前回までの反省や先日の勉強会の経験を活かしながら、新しく来た留学生の案内をした。はじめに入寮に必要な書類記入の手伝いをしたりゴミ出しなどの生活ルールの説明をしたりした。その後、それぞれの部屋へ案内し、家具家電の使い方や用意したインフォメーションブック

を使い周辺のスーパーマーケットやコンビニ、病院など場所の確認をしたり、今後自分たちが企画しているキャンパスツアーなどのイベントの紹介をしたりして、留学生の日本での生活が楽しくなれるように工夫した。

特に10月は入寮日がすでに大学の講義が開始している期間だったが、メンバー同士空いた時間をうまく調整することによって手伝いをする事ができた。しかし、人手がかぎられており、一人ひとりにさける時間が短かったこともあり、どうしても説明が単調になってしまうところがあったので、今後、役割分担やマニュアルの見直し等を行っていき、留学生に安心してこれからの日本での生活が送ってもらえるように考えていきたい。



## (1) キャンパスツアー

文責 加藤真穂

入寮サポート後には、名古屋に来て間もない留学生、具体的にはNUPACE(4,9月)とG30(9月)の学生に向けてキャンパスツアーを行っている。ACEメンバーと留学生がいくつかのグループに分かれ、大学構内の施設を案内し、学食と一緒に昼食をとる。少人数で会話をしながら行動するため、留学生との交流も深まる。

ACEメンバーの反省では、時間が足りなかったり逆に余ってしまったりと調整が難しいことや、授業等に関する留学生の説明にうまく答えられなかったことが課題として挙げられた。ツアーを時間内にきっちり遂行しつつも、流れ作業のような案内ではなく、不安や疑問を多く抱えた留学生が安心できるような対応ができるよう、質の向上に努めていきたい。

## (2) バザー

文責 山田修士

バザーは年2回、留学生が名古屋大学に入学する時期に名古屋大学留学生会(NUFSA)が主催しているイベントである。ACEはこのバザーにおいてボランティアとしてNUFSAを補助している。ACE以外にもともだち会やYWCAの皆様もボランティアとして参加されている。バザーは例年、4月と10月の共に第2土曜日の午前中にレジデンス東山で開かれており、留学生のみを対象として、入場料

を 300 円と定めている。品物はバザーの張り紙やハガキ、マスメディアなどを活用して一週間前から地域の人々から集めており、電化製品、家具、日用品、布団、自転車など様々なものが揃っている。ここ数年は近藤産興株式会社様のおかげもあり、大変賑わっている。どの品物も低価格で販売しているため、留学生は朝早くから列に並び、ほしいものを購入していく。



### (3) ウェルカムパーティー

文責 酒井健有

受け入れ活動の一環として、NUFSA（名古屋大学留学生会）が主催するウェルカムパーティーをお手伝いしている。今年度の秋は 10 月 18 日（土）に、アメニティーハウス（フレンドリー南部）をお借りして行った。新しく来た留学生が日本人と、もしくは留学生同士で友達をつくること出来る場所を提供することを目的としている。入場料は新留学生が無料、それ以外の方は 600 円に設定した。ソフトドリンク、アルコール、軽食を用意し、ソフトドリンクと軽食は無料で、アルコールに関しては、年齢確認をして、1 杯目は無料、2 杯目以降は 1 杯 100 円で提供した。また会場にはダンスブースを設置し、スピーカーで音楽を流してダンスを楽しんだ。また、NUFSA からのパフォーマンスイベントとしてビンゴゲームを全体で行い、上位の人には景品を渡した。100 人以上の人に参加してもらい、留学生、日本人が入り混じって会話やダンスを時間いっぱい楽しめたので良かった。

### (4) 遠足

文責 河合淑香

年 2 回の受け入れ時期には、留学生と一緒に遠足を行う。留学生と日本人混合の小グループに分かれて行動する。春の遠足ではすべてのグループが東山動物園へ行き、秋の遠足ではグループごとに各自行き先を決め、名古屋を観光する。名古屋港水族館、熱田神宮、名古屋城、大須観音などが人気である。



## 6月：まじめ合宿

文責 兼山将寿

ACEの運営に関わる最も大切な行事である。毎年六月第二週の土日を通じて行われる。この二日間の合宿を節目にして、運営が三年生から二年生へと変わる。

この合宿は新一年生と友好を深めることのできる場でもあり、この合宿が一年生と二年生、また上級生たちとの仲を深める始まりになることも多い。

そして、毎年一年生に歓迎の意味も込めて運営を経験してもらうために七月に行われる七夕イベントのチーフを任せるのもこのイベントの中で行われる。

これまで運営してきた代の人たちからこれから運営をしていく代の人たちへと仕事が受け継がれていくのがこの合宿となる。



## 7月：七夕

文責 マー礼奈

今年も新一年生が中心となって企画する七夕パーティーを行った。劇、短冊づくり、射的、水風船、かき氷、流し素麺など、各班でブースを用意して日本の七夕文化を紹介した。

一年生にとって、チーフやサブチーフを務めたり、打ち合わせを行ったりと、すべてが“初めて”であった。そのため、イベントに来てくれた留学生とだけでなく、先輩が後輩に企画のアドバイスをしたりとサークル内での交流も多くみられた。

みんな浴衣を着てとても華やかな雰囲気を楽しめた。



## 10月：ハロウィンパーティー

文責 原田南那

ACE 主催のハロウィンパーティーでは留学生と日本人学生(名古屋大学、南山大学、金城学院大学など)が楽しみながら交流することを目的とする。今回は名古屋大学のフレンドリー南部を貸し切って行った。参加者には自由に仮装をしてきてもらい、音楽をかけながらそれぞれ会話を楽しんだり、ビンゴ大会をしたりして仲を深めることができた。

## 12月：留学生の夕べ

文責 吉田智子

留学生の夕べとは、AFSA(愛知留学生会)が、日本人に母国の文化を紹介しながら交流を図ることを目的に毎年12月に名古屋国際センターで開いている行事である。私たちACEや、名古屋学芸大学のICC、名古屋工業大学の学生はその運営のサポートをしている。第50回目の大きな節目となる今年は、毎年恒例であった各国の料理ブースの代わりに、インド式計算の教室やヘナタトゥ体験、英会話レッスンなどの体験型ブースを設置した。会場では、パワーポイントを用いて自国の紹介をする人、伝統的な踊りを披露する人など様々であった。今年は昨年より参加者数も増え、大いに盛り上がり、成功に終わった。

このように、ACE内の活動だけでなく他団体と協力して一つのイベントを作る活動も行っている。



## 1 月：お正月イベント

文責 形田怜央菜

日本の伝統的な正月行事を味わってもらおうというのがこのお正月イベントの趣旨である。今年の企画は、書初め・福笑い・お汁粉・餅つきの4つであった。書初めは例年好評で、私たち日本人学生も久々にやるので留学生と一緒に楽しめ、200枚あった半紙が足りなくなるほどだった。また、福笑いはすべて手作りのものを使用し、たくさんのキャラクターで遊べた。お正月企画の1番の目玉である餅つきは、今年も日本人と留学生が協力して行うことができ、とても盛り上がった。寒い中で食べる温かいお汁粉もとても美味しく、雨とあって参加者が予定より少なかったせいか、量も十分にあり、また、参加費が安いために東山レジデンスに住む留学生も当日気軽に参加してくれた。

課題として挙げられたのは、企画の数の少なさだった。この時期、正月とあって慌ただしく ACE の参加者も多くないので、こじんまりとしたイベントになってしまい、全企画を一通り終わると留学生が帰ってしまうので、交流する時間が長く持てなくなってしまった。広報を FaceBook で行った結果、留学生の参加者は昨年より増加したので、今後、イベントの規模や運営をもっと考慮する必要がある。

## 3. 来年度に向けて

文責 加藤真穂

代替わり後、私たちは「もっと留学生と関わる機会を増やしたい」という思いから、普段のイベントより小規模な企画（フードファイティング、月食観測会等）を月一で開催するなどの取り組みを新たに行ってきた。三大理念のうちの一つでもある“交流”の側面を強く打ち出し、留学生も日本人も楽しみながらコミュニケーションを深められる場を多く作れたのではないかと思う。

しかしその一方で課題も存在する。それは、受け入れ活動における人員不足や質の低下である。在籍人数の割に実働人数が少ない、過去の仕事内容をそのまま事務的に繰り返しているというのが現状である。創設以来続いてきた受け入れ活動は、既存のマニュアルに従って仕事をこなすだけでなく、その時々状況に合ったより良い内容へ変えていくことが求められるため、留学生への思いやりを持って真剣に取り組まねばならない。組織の肥大化に伴ってメンバーが ACE に求めるものも多様化しており、一つの目的に向かって全員で取り組むことが難しい状況になりつつあるが、ACE の根幹であるこの活動は、メンバー全員でもっと大切にしていかなければならない。

大人数ならではの意見の多様性を大切にしながら、ACE という一つの団体として何がしたいのか、何ができるのかを考え、メンバー間で共有していくことが今後の課題といえる。

名古屋大学留学生会  
NUFSA

名古屋大学留学生会  
NUFSA  
名古屋大学留学生会  
Nagoya University Foreign Students Association  
Yixuan Wang

1. About NUFSA

Created in 1985, Nagoya University Foreign Students Association (hereafter referred to as NUFSA) focuses on the planning and management of various events and conducts a number of activities every year to improve students' life in Nagoya University and to support them in 2014, Dr. Yixuan Wang was selected as chairman of NUFSA again . In order to increase the efficiency of NUFSA, the organization got the new members and make new plans for NUFSA to make the NUFSA perfect.

2. Executive board

President: Yixuan Wang

Vice President: Andreas Kamoey ,Yijie Hu, Kanghua Jin

Secretary & Treasurer: Mengzhe Wang

3. Membership

NUFSA membership is free of charge and automatically granted to all foreign students enrolled in Nagoya University, regardless of their nationality, major, schools, undergraduate or graduated students, etc. However, NUFSA holds a mailing list where information related to major events academics and daily life experiences are shared. For updates, students's write-ups, comments, ideas are invited, therefore, in order to participate; students should registered at [nufsa@nagoyaren.com](mailto:nufsa@nagoyaren.com).

4. Networking

In 2014, NUFSA used a lot of computer and internet skills to propagate the events of NUFSA in response to the rise of international students in Nagoya University. Please find us!!!!!!

LINE : NUFSA 名大留学生会

Facebook: NUFSA Fan Page

QQ Group: 名大留学生会

Website: [www.nagoyaren.com](http://www.nagoyaren.com)

Wechat: NUFSA

## 5. Support

NUFSA receives support from various organizations. We are financially supported by Nagoya University Foreign Student Support Association and we receive regular technical and organizational support from Nagoya University Advising and Counseling Services. We also collaborate with volunteer groups (ACE, YWCA, ALOE, Tomdachi) for organizing activities such as bazaar, welcome party, excursions, sports contest, etc.

## 6. Activities

In order to achieve our goals, we organize activities on annual bases, which run concurrently on weekly bases within semesters:

### ● Bazaar (twice a year)

We hold a bazaar twice a year in order to help newly arrived students to settle down. Offered goods are sold at a very low price including home appliances, daily household items, small furniture, bicycles, etc.

Time: early April and October.

Place: Higashiyama Residence

### ● Sports events (Twice a year)

We organize sports events to bring people closer. Games include badminton, tennis table, tennis, basketball, etc.

Time: September and March.

Place: Nagoya University Gymnasium

### ● Welcome Party (Twice a year)

This party is to welcome the new students, and introduce them to Nagoya University. It offers a good opportunity to meet new and current students and to get to know each other in a casual setting.

Time: Late April and October.

Place: Nagoya University Cafeteria

### ● Various parties

NUFSA plans a variety of parties such as New Year party etc. These are small parties, mainly for NUFSA executives of each department to exchange experience and resources.

Time: July, August, December, January, February

Place: Variable

### ● Newsletter

NUFSA newsletter is a bi-annual publication, which reports on current activities, students experiences and events in Nagoya. Articles are written by students and a copy

of the newsletter can be downloaded on our website.

- Academic activities

Japanese Language & Culture course for foreign students' family members, sponsored by Nagoya Sakae Lions Club.

## 7. Future Plan

We plan to hold a foreign language corner for international students to study foreign languages.

名古屋大学グローバルネットワーク  
国際交流グループ  
2014年度 活動報告書

発行日 2015年3月31日

発行 名古屋大学国際教育交流センター

〒464-8601 名古屋市千種区不老町

Tel: 052-788-6117